

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO. 93

2022.2

ウイズコロナ 時代 の 乳がん検診

わが国における新型コロナウィルス感染症の収束にはまだしばらく時間がかかりそうです。

感染拡大により、2020年には一時期とはいえ各種がん検診が中断され、その後も検診控えや、症状があっても受診控えする方が増え、乳がん検診や診療にも暗い影を落としつつあります。

今回のセンターニュースでは、わが国の乳がんの実態と、コロナ禍のなかでの乳がん検診について述べます。

今なお増加しているわが国の乳がん

乳がんは女性のがんのトップで今なお増加傾向にあり、「2021年のがん統計予測」（出典：国立がん研究センターがん情報サービス）によると乳がんにかかる人の数は94,400人（女性のみ）と推定されています。単純に計算すると、日本人女性の9人にひとりが生涯のうちに乳がんに罹ることになります。とくに日本人の乳がんは40歳代後半にピークがあり、比較的若い年齢層のがんであり社会的にも影響が大きいわけです。

乳がん検診受診率は伸び悩み？

国民生活基礎調査による推計値では2019年に40～69歳での乳がん検診受診率は47.4%であり少しずつ向上はみられますか、欧米のそれに比べるとまだ低く、厚生労働省が目標としている受診率50%以上の達成にもあと一歩といったところです。2020年以降のコロナ感染拡大により、この検診受診率がどのように推移しているかが気になります。

ウイズコロナ時代の乳がん検診

日本対がん協会の調査によると2020年の5つのがん検診（胃、肺、大腸、乳、子宮頸）受診率は2019年に比べて30.5%減少したとしています。また検診控えに加えて受診控えの影響もあって、上記5部位のがんと診断された患者さんの数も減少しています。乳がんについてみると、2020年の乳がん診断件数は2019年と比べて8.2%減少しており、特に早期段階といえるⅠ期乳がんが9.7%減少しているのは大きな問題です。

日本乳癌検診学会では「乳がん検診にあたっての新型コロナウィルス感染症(COVID-19)への対応の手引き」を作成し、コロナ禍の時代にあっても、安全・安心な検診を受けていただくよう推奨しています。当院においても、こうしたガイドラインを遵守して万全の策を講じていますので、従来通り安心して乳がん検診を受けていただきたいと思います。

ただ、センターニュースNo.88で解説しましたように、新型コロナワクチン接種後の副反応として、ワクチンを接種した側のわきの下のリンパ節の腫れがしばしばマンモグラフィや超音波検査の画像に影響が出ることがありますので、ワクチン接種後は10週間以上の間隔をあけての乳がん検診を推奨しています。

